

内と外を繋ぐセカンドハウス

コンセプト

地方住宅のリノベーションについて考える課題です。
対象の敷地は三重県松坂市の伊勢中川駅の近くに位置し、周辺は農地と住宅がまばらに広がるエリアです。祖父母の住んでいた住宅は現在は利用されず空き家になっています。現代の日本の住宅は新築を立てることで構成されているため、改修をする考えがあまり取り入れられず「住宅ストック」が増え続けています。ストック問題を解消させるために、使われていない住宅をリノベーションして家族や周辺の人々がどのように豊かな暮らしを生み出せるかを考えます。
既存の建物は閉鎖的な印象を受けました。室内には和室が多く敷居で一部屋ずつ区切られており、日光が部屋全体に行き渡っていないと思いました。そのため日光を取り入れやすいように、開放的な家を考えました。

外観



内観 1



内観 2

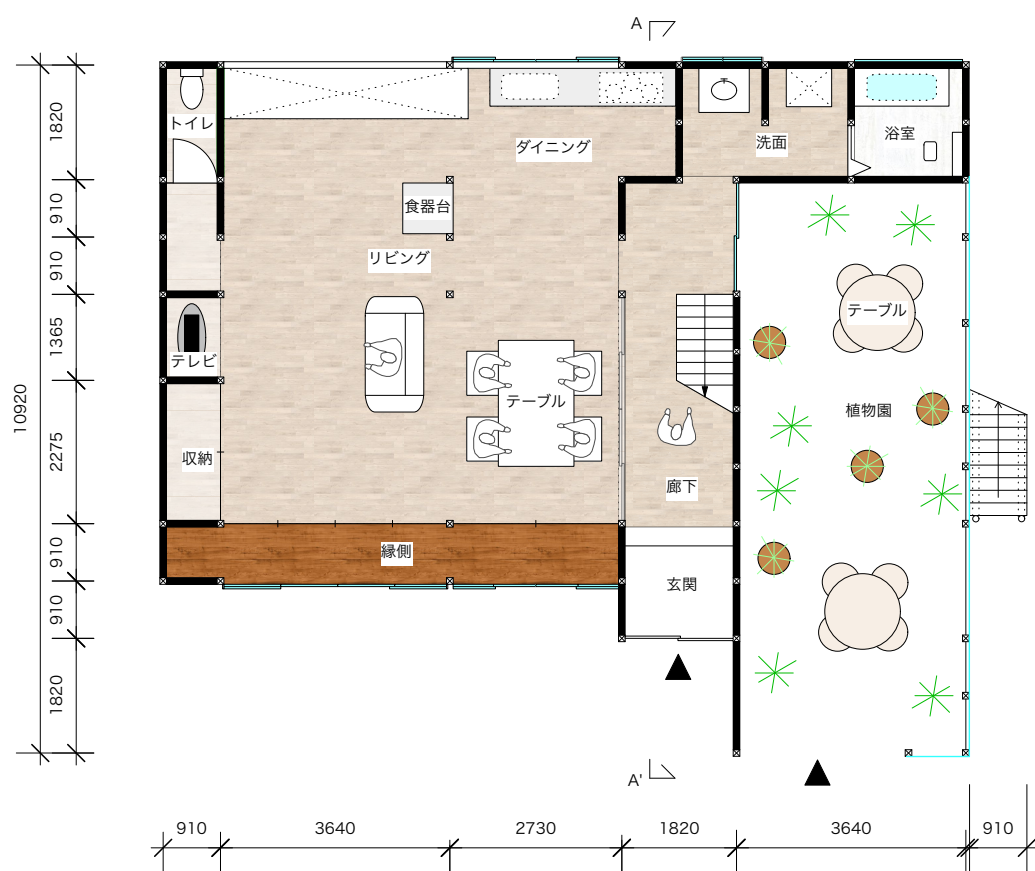


敷地リサーチ



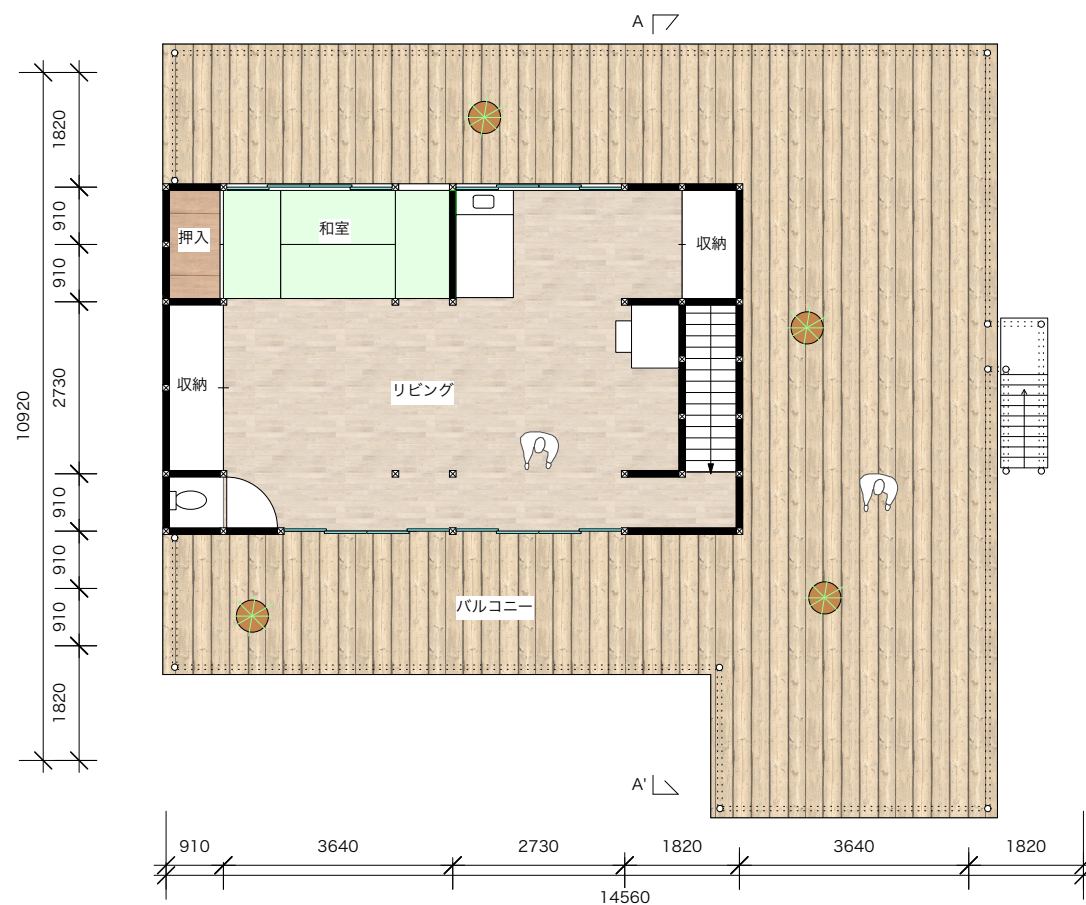
配置図

1階平面図(1/50)



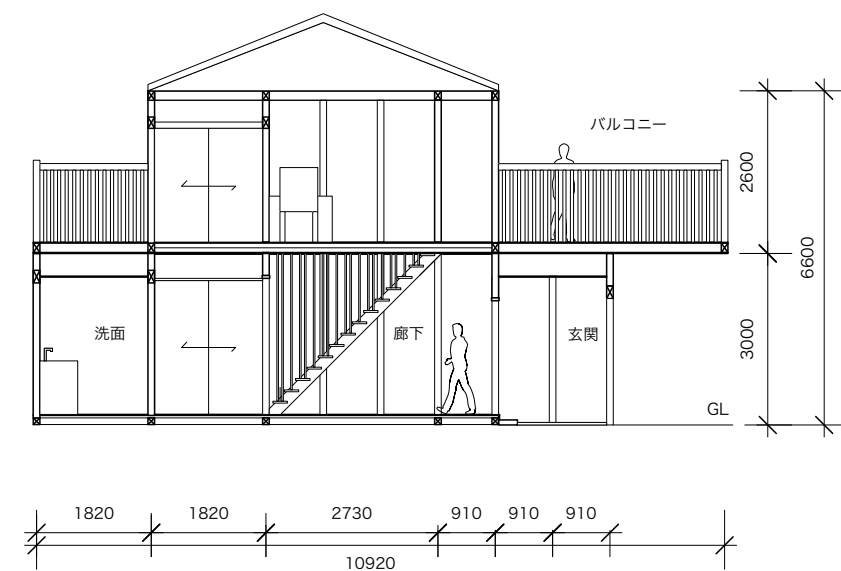
和室の部分をリビング ダイニングに変えることによって広く活用できて、日光が部屋全体に行き渡るようにしました。応接間や台所を植物園にしました。地域との交流を深めたり、緑に囲まれてリラックスする空間になっています。

2階平面図(1/50)



中間部分の瓦屋根をバルコニーに変えました。室内と外階段から移動でき、内と外を繋げる空間になっています。室内は敷居を無くして部屋全体を一室にしました。

A-A'断面図(1/50)



柱を変えずに開放的な空間を作りました。玄関を出るとバルコニーが庇になっています。バルコニーから庭全体を見渡せるようになっていて、1日中外で過ごすことができます。



家全体を俯瞰した写真。



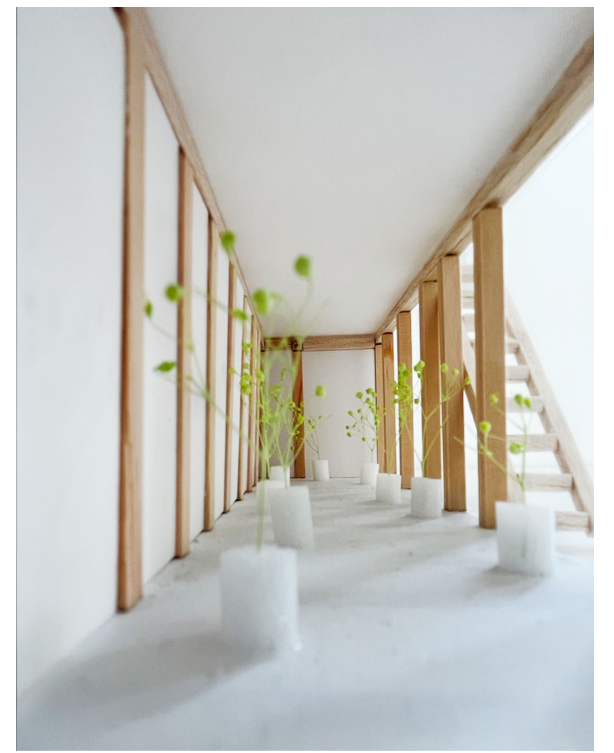
バルコニーから見た2階のリビング。



人の目線で見た全体写真。



縁側から見た1階のリビング。



植物園。ガラス張りになっていて光が差し込み明るい空間になっている。